

『みやぎがくいんようちえんだより』2015年7月号

## さびたコイン

園長 平 川 新

今年の2月のことです。年中組の子どもたちが遊歩道を散策中に、さびたコインを見つけました。泥を落としてきれいにみがいてみると、「寛永通寶（宝）」と書いてありました。当時の三浦園長にお見せしたところ、これは昔のお金ではないか、それなら歴史が専門の平川学長に尋ねてみたら、ということで、3月上旬に、園長先生と担任の先生、それにすみれ組の子どもたちがみんなで、私のところに訪ねてきました。

「寛永通寶」は江戸時代にもっとも流通した銭貨ですが、私が驚いたのは見つかった場所です。遊歩道の林の中をだいぶ歩いた、丸太沢に近いところで発見したというのです。泥まみれになっていたのですから、よくぞ見つけたなあと思います。発見力がありますね。

不思議なのは、なぜそんな林の中の小道に江戸時代のコインが落ちていたのかということです。江戸時代人が落としたのか、それとも現代人が落としたのか？ なぞですね。

丸太沢は江戸時代からありますが、今の遊歩道が当時から道だったわけではありません。ただ近隣の農家の人たちが、薪を取りに林の中に入ったり、丸太沢の貯水の様子を見に行ったりしたかもしれません。その時に落としたのかなあ。あるいは宮城学院が現在のキャンパスに移転して、遊歩道が整備されてからかもしれません。考えやすいのはこちらですが、それにしても、誰が何のために「寛永通寶」を持ち歩いていたのでしょうか？ それもまた、なぞです。

このコインをめぐる子どもたちとのやりとりも楽しいものでした。忍者が落としたのではないかと、きっと女忍者だ！とか。こういう発想はおもしろいですね。じゃあ、女忍者のことをなんと呼ぶのかな？ 「くのいち」だよ。だって「女」という字をバラバラにすると、「くノ一」になるでしょ、という具合でした。

